

2023年5月21日(日)

乞田川清掃 活動報告



↓ Facebookでの5月21日の清掃活動報告です。

「よみがえれ、大栗川を楽しむ会」では、乞田川の定例清掃を正式な活動としてスタートしました。今後、奇数月の第3日曜日に実施していきます。

5月21日の乞田川清掃では、南田橋に集合して7名のベテランメンバーで行いました。乞田川沿いを走るランナーの方も多く、柵内から川に降りて清掃作業する私たちが珍しそうに見る方もありました。川沿いに自販機があったため缶のごみが非常に多く、ワインボトルやビールがレジ袋に入れられて川の真ん中に捨てられていたり、川沿いで飲食して不法投棄した混在ごみもありました。乞田川の定期的な清掃作業の必要性を感じた初日となりました。

清掃後は、川の淵にたわわに実った立派な「桑の実」をみんなで食べ、楽しい。清掃日となりました。

◆ **開催日**：2023年5月21日(日)

◆ **時間**：午前10時～12時

◆ **集合場所**：乞田川：南田橋付近(左岸)

◆ **清掃場所**：諏訪下橋上流90m～馬引沢橋～南田橋～熊野橋～車橋
下流20m(全長：約820m)

◆ **回収したごみ**：可燃系2袋、不燃系2袋(45L袋)

◆ **参加人数**：7名

◆ **主催**：よみがえれ、大栗川を楽しむ会





南田橋に掲げた横断幕。3度の試験清掃を経て
乞田川清掃を定例化することになりました。
今回は記念すべき第1回目!

小型テントを設営



清掃日直前に雨が降ったこともあり川面の軽いゴミの多くは流されていましたが、その後に捨てられたと思われる不法投棄ゴミがありました。水深は平時よりもやや深い状態





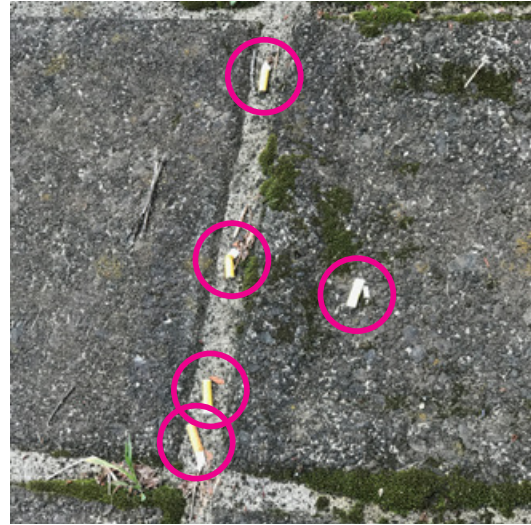
不法投棄されたレジ袋。バナナの皮・ビール缶など



ワインボトル・ペットボトル(お茶)



ヨシの群生地には、レジ袋が流されずに多く引っかかっていた



↑馬引沢橋右岸下のタバコの吸殻。常習的に橋の上から捨てられたものだろうか

↓川床の段差や暗渠の出口があるため、右岸堤防、川の中、左岸堤防をうまく移動しながら清掃作業を行った



よみがえれ、大栗川を楽しむ会



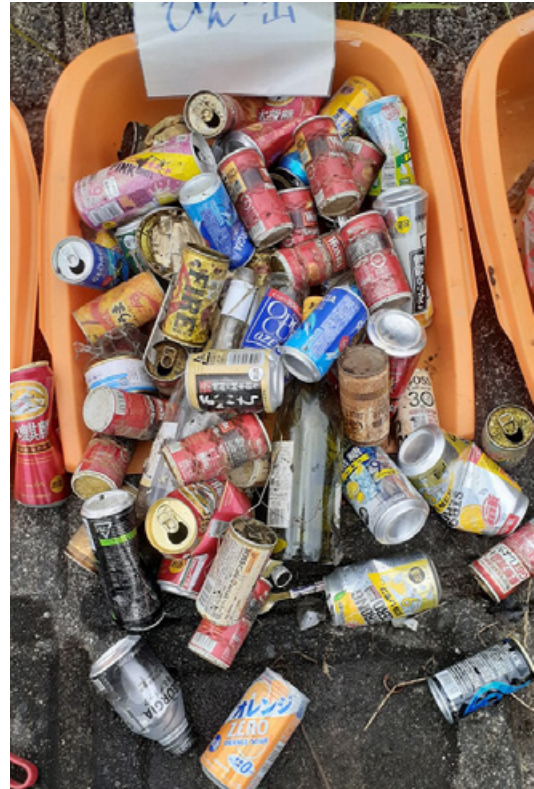
ゴミ分別風景



プラ袋



金属・粗大



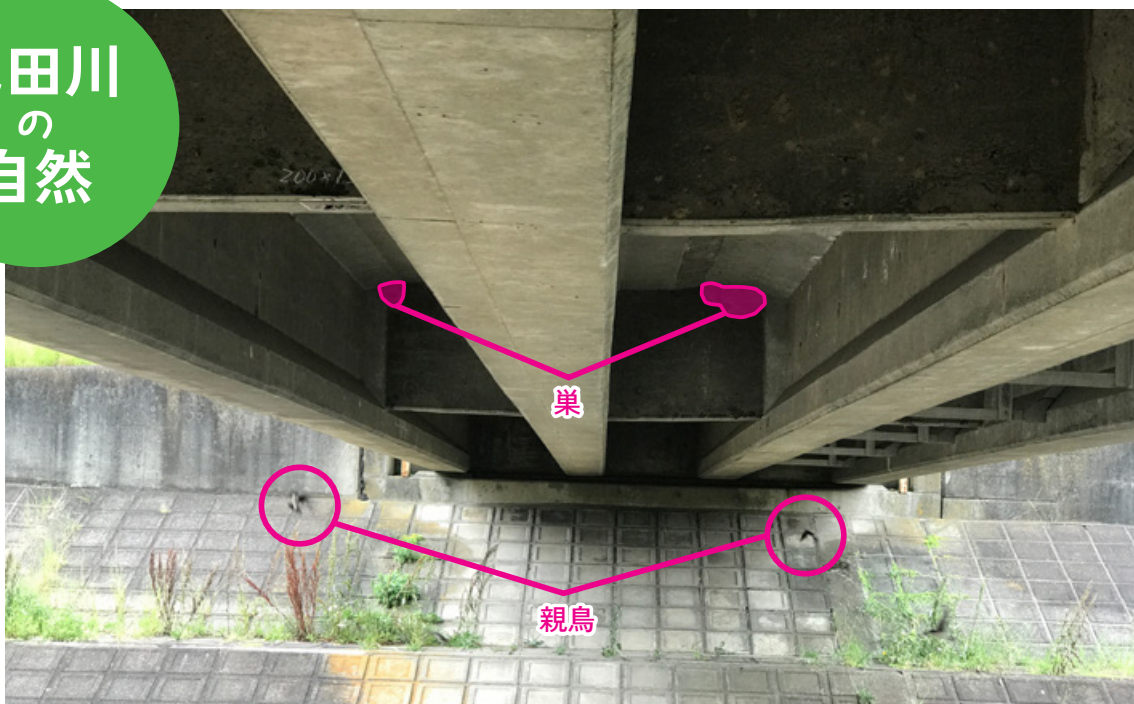
↑びん・缶。常習的に捨てられているのと同じ銘柄のコーヒー缶が目立つ。近隣には、捨てられている銘柄が販売されている自販機が設置させている。また別の場所で購入したと思われるアルコール類の缶も目につく



レジ袋。ヨシの群生地で多くみつかった



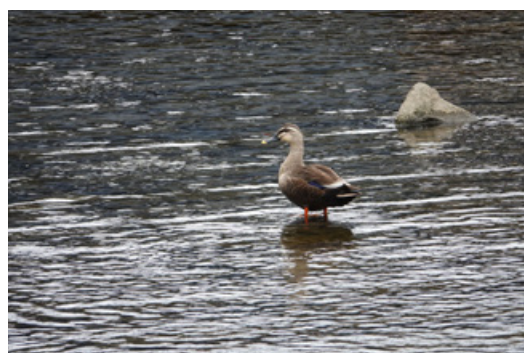
乞田川の自然



馬引沢橋の下には毎年、イワツバメが橋の下を飛び回る親鳥の姿を見かけ、ここに営巣していることがわかる。巣は全部で10個ほど確認できた。乞田川には多くの橋があるが、イワツバメは下から覗き込まれない橋が好みの方



ジャコウアゲハのサナギ？ 近くにウマノスズクサ科の植物が生えているかも…



↑この付近はカルガモが多く、ヨシの茂みに分け入ると、隠れていたヒナたちが一列になって逃げだした。乞田川のヨシの茂みは、ヒナたちが外敵から身を隠し、また増水時の避難先として必要不可欠の場所ようだ



←オオキンケイギク(特定外来生物)と、ブタナ(要注意外来生物)の花畑。黄色い花が美しい。オオキンケイギクは、かつては工事の際の法面緑化にも使用されていたが、在来生態系への影響が大きく、現在は生きたままの運搬や栽培、譲渡などが禁止されている。ブタナ(別名:タンポポドキ)は、タンポポに似た花で茎が長い



乞田川 の 自然



ムシトリナデシコ(外来種)の花。コンクリート堤防に鮮やかなショッキングピンクの花が一株。ひときわ目立っていた



クワの実(マルベリー)。乞田川のフェンスの中で思わぬ自然のめぐみを発見! カイコのエサの葉っぱで知られている桑の木が、たわわに実をつけていた。黒くなっているのが熟して食べごろとのこと



よみがえれ、大栗川を楽しむ会